

令和元年度 第1回安城市環境審議会議事録要旨

日 時	令和元年10月28日(月)午後2時～3時	
場 所	安城市役所本庁舎災害対策本部室	
出席者	委 員	伊吹会長、平岩副会長、鈴木委員、浅田委員、板倉委員、岩井委員、占部委員、神谷委員、中尾委員、野村委員、熊田委員、大野委員、都築委員 13名
	事務局	市長、環境部長、環境都市推進課長、環境都市推進課長補佐、環境都市推進課環境衛生係長、環境都市推進課職員
次 第	1 委嘱状交付 2 市長あいさつ 3 会長及び副会長選出 4 諮 問 5 議 題 (1) 令和元年度版環境基本計画年次報告「安城市環境報告書」について (2) 第2次安城市環境基本計画の策定について 6 その他	

1 委嘱状交付

2 市長あいさつ

3 会長及び副会長選出

会長：伊吹委員、副会長：平岩委員

4 諮 問

5 議 題

(1) 令和元年度版環境基本計画年次報告「安城市環境報告書」について

<報告事項>

【事務局】

- ・安城市環境審議会について
- ・環境基本計画について
- ・環境報告書成果指標について
- ・地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について

<報告に関する質問・意見>

【鈴木委員】

成果指標の目標値について。報告書21ページの成果指標「環境に関するイベントや講座への参加率」は基準値5.9%に対し、目標値が20%で設定されている。この項目だけではなく、目標値が基準値から乖離している項目がいくつか見られるが、こうした目標値設定にしたのはなぜか。

【事務局】

「環境に関するイベントや講座への参加率」は市民アンケートの結果に基づいている。市が直接実施する施策であれば現実味のある目標値を設定できるが、こうした市民の

行動に基づくものについては希望的な値となっているのが現状。しかしながら目標値は目標値として目指す努力をしていくことが必要であることから、今後も関係団体の協力を得て、より良いイベントや講座の実施に取り組んでいく。

【神谷委員】

報告書20ページにおいて水源の森に関する数値が成果指標として掲載されている。水資源の保全という意味では、安城市が根羽村に持つ分収育林から生まれる水量などを指標としたほうがより分かりやすいと思われる。そうしたデータは存在するの
か。

【事務局】

支流もあるので分集育林から生まれる水量のみのデータを出すのは難しい。現在の成果指標の『水源地である長野県根羽村に対する市民の認知度』が、水源に対する意識の向上という意味でふさわしいのかどうかは、これから次期環境基本計画を策定するにあたり、成果指標の内容も含めて審議会の中で検討し、ご意見いただきたい。

【中尾委員】

環境報告書23ページにおける区域施策編の算出方法についてお聞きしたい。年ごとの変動は加味しているのか。総エネルギー量に再生エネルギー量は入っているのか、それとも差し引いているのか。

【事務局】

その年ごとに排出係数を掛けており、変動に対応している。エネルギー量については、実際の使用量のみで算出している。

(2) 第2次安城市環境基本計画の策定について

<説明事項>

【事務局】

- ・ 策定体制とスケジュール
- ・ 現行計画への追加要素
- ・ 計画の考え方
- ・ 他部署との関わり
- ・ アンケート調査概要

<説明に関する質問・意見>

【都築委員】

市民アンケートと事業者アンケートの抽出対象、抽出区分について教えてほしい。事業者は業種や事業者数の大小で分けるのか。

【事務局】

市民アンケートについては性別、年齢等は指定せず、ランダムで市内の1600人を抽出する。個人向けに送付してもその世帯の誰が回答するか分からないため。アンケートの設問で「回答されたあなたについて教えてください」と問うことで実際の回答者の性別、年代は把握する。事業者アンケートについて、業種や事業者数等での振り分けはしない。

【板倉委員】

環境基本計画の説明の中で、現行計画への追加要素としてSDGsを取り入れるとしていたが、アンケートとの紐づけはどのように行われるのか。

【事務局】

安城市の総合計画の見直しにおいて既にSDGsが組み込まれているため環境基本計画にも反映される。市民アンケートではSDGsにリンクした設問は用意していない。事業者向けアンケートはSDGsの内容を組み込んでいる。結果を踏まえて安城市としてのSDGsを考えていく。

【神谷委員】

要望として。森林環境税、森林環境譲与税があるが、森と水との関係、地下水のくみ上げによる地盤沈下、水田について考えてもらいたい。SDGsの取り組みにもつながる。

【事務局】

貴重なご意見として頂戴する。

【大野委員】

市民公募で選出された市民としてお聞きしたい。アンケート対象の市民について、安城市民18万人に対してアンケート送付を1600人とした理由を知りたい。先ほど事務局側が言われたように啓発の意味を込めるのであれば、送付数をもっと多くしても良いのではないか。

【事務局】

統計処理上では、安城市の規模では1000件ほどの回答が適切なため、返信率、回答率を考慮して市民アンケート送付数を1600とした。PRという意味でもっと多くというご意見はそのとおりであるが、予算の都合上、アンケート送付数はこの数とし、広報誌など他の媒体を利用した啓発に努めることでご理解いただきたい。

【浅田委員】

自転車についてお聞きしたい。前の議題の内容となるが、環境報告書7ページ「自転車の利用啓発」の中の実績に「子ども向け自転車教室を開催」とあるが、高齢者向けのものはないのか。また、市民アンケートにおいて説明の中では自転車に関する項目がなかったように思うが、どうか。

【事務局】

自転車の利用については施策を世代別に区切っていない。ご指摘の「子ども向け自転車教室」は都市計画課が担当し、エコりんりんという市民活動団体が行っている。高齢者向けの教室については知る限りでは行っていないが、ご意見として内部で検討したい。市民アンケートの自転車に関する項目としては、問1（1）9番に「移動する際は徒歩や自転車、公共交通機関を利用してガソリン、軽油等自動車用燃料を節約している」という設問がある。

6 その他

<令和元年度第2回環境審議会の開催予定について>

【事務局】

次回、令和元年度第2回環境審議会は令和2年2月中旬～下旬に開催予定です。審議員の皆さまには開催日の1か月前に開催通知を送付しますのでよろしくお願い致します。

(以上)